令和７年７月１０日（木）付紙面から

津軽新報

■高校生が動物愛護を学ぶ課外活動

【1】（第 22034 号）（昭和24年１月14日第三種郵便物認可）　（日刊但し月曜日休刊）　津　軽

動物愛護の気持ちを

黒石市のごろにゃん　尾総生が触れ合い

子猫と触れ合う高校生

黒石市中川の猫ハウスごろにゃんが、高校生の課外活動の受け入れを積極的に行っている。同店の直井誠さんは「動物愛護の気持ちを伝えたい」と思いを語った。

１日は、平川市にある尾上総合高校の生徒２人が課題研究の一環として訪問。動物虐待をテーマに取り組み、けがをした猫や保護猫のその後を調べているという。

注意事項などの説明を受けた後、猫と触れ合った。生後２カ月ほどの子猫や成猫と触れ合い、癒やしのひとときを満喫した。

触れ合いの後は、生徒が直井さんにインタビュー。生徒からの「カフェを運営する目的、理念は」という質問に対し「里親を見つけ、行き場のない猫の命を救いたい。保護された時から虹の橋を渡るまで面倒を見たい」と回答。

また「カフェをやっていて大変なことは」という質問に対しては「大変なことはあるが、それ以上に与えられるものが大きく、生き生きと働けているので苦労と感じない。譲渡で見送るときはさみしい。けど、その分感動をもらえる」と話した。

また、高校生に対し「ＳＮＳで発信したり、口コミで広めてくれたりするとうれしい。いじめ

津軽新報 Web サイト

https://www.shinpou.jp/2025_hpnews/07/0710.html

黒石市中川の「猫ハウスごろにゃん」では、高校生の課外活動を受け入れており「動物愛護の気持ちを伝えたい」と思いを語る。

１日は、県立尾上総合高校の生徒２人が課題研究で訪問。動物虐待をテーマに、けがをした猫や保護猫のその後を調べている。生徒に対し「いじめられている猫がいたら助け、捨て猫を見かけたら連絡を。気に留めてもらいたい」と伝えた。